

# 岡山県 吉備中央町

面積 268.78 平方キロメートル  
 人口 10,209 人 (2024 年 11 月 1 日現在)  
 世帯数 5,160 戸

## アクセス

吉備中央町への車の移動時間の目安

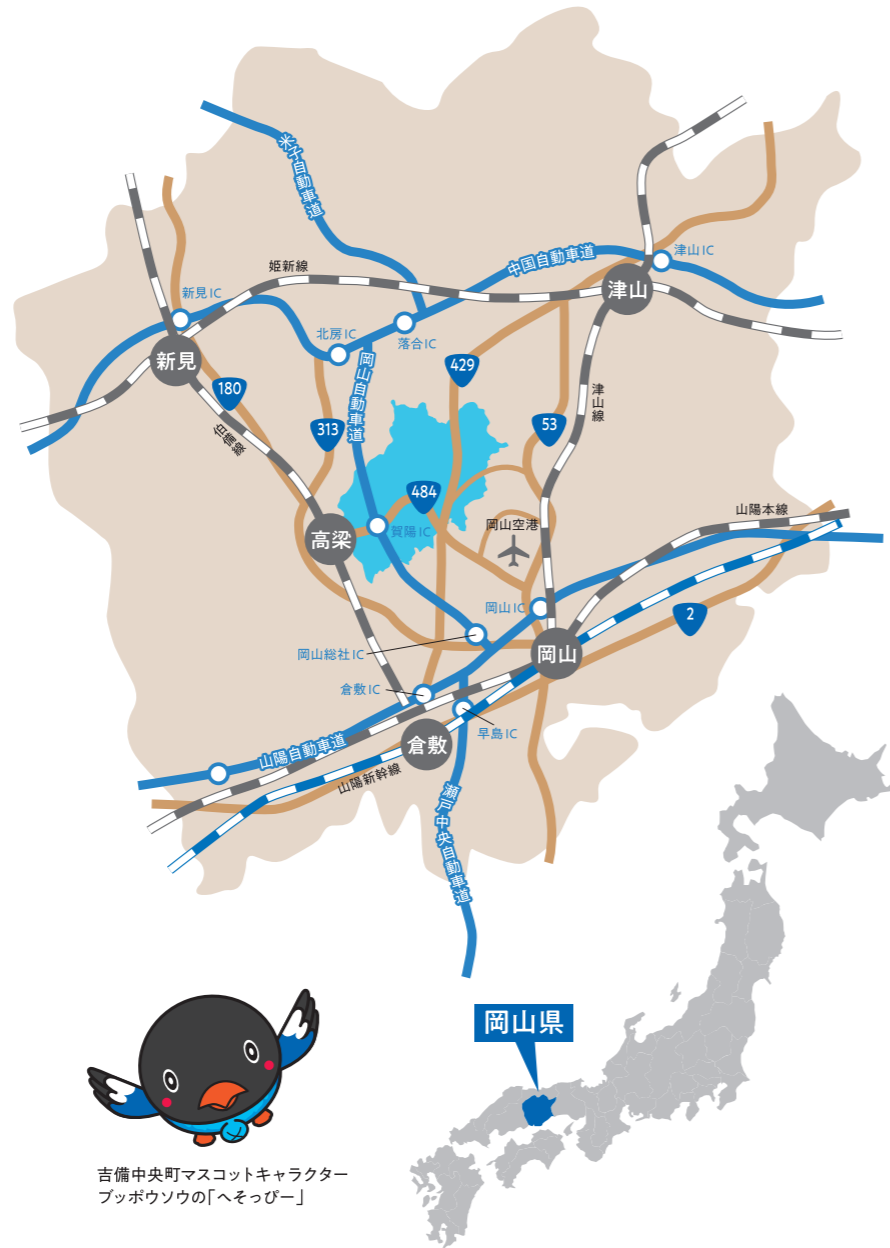
- 岡山市から…約 60 分
- 津山市から…約 60 分
- 倉敷市から…約 60 分
- 新見市から…約 50 分
- 総社市から…約 40 分
- 高梁市から…約 20 分

賀陽庁舎へのアクセス方法

- JR 岡山駅から
  - ① 中鉄バス (吉備高原都市行) で  
きびプラザバス停下車 (約 1 時間 30 分)  
タクシー利用で (約 15 分)
  - ② JR 伯備線・備中高梁駅下車 (約 50 分)  
駅から備北バスで新町バス停下車 (約 30 分)
- 岡山空港から  
車またはタクシーで約 30 分
- 高速道路 IC から  
岡山自動車道  
賀陽 IC から車で約 10 分

加茂川庁舎へのアクセス方法

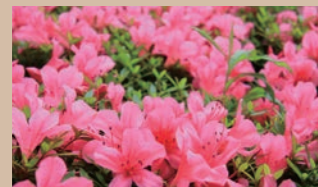
- JR 岡山駅から
  - ① 中鉄バス (岡山県運転免許センター経由) で  
下加茂バス停下車 (約 1 時間 20 分)
  - ② JR 津山線で金川駅下車  
駅から中鉄バスで下加茂バス停下車 (約 30 分)
- 岡山空港から  
車またはタクシーで約 20 分
- 高速道路 IC から
  - ① 岡山自動車道利用 賀陽 IC から車で約 20 分
  - ② 山陽自動車道利用 岡山 IC から車で約 40 分  
総社 IC から車で約 40 分



吉備中央町マスコットキャラクター  
 ブッポウソウの「へそっぴー」

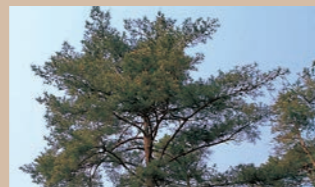


【吉備中央町 町勢要覧】発行: 吉備中央町 企画課  
 〒716-1192 岡山県加賀郡吉備中央町豊野1-2  
 TEL: 0866-54-1313 (代表) FAX: 0866-54-1855 発行年月: 令和6年11月



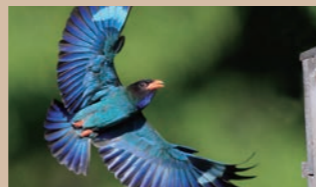
町の花 ツツジ

野山に咲くツツジのように、人々の心も美しくなるよう願って決めました。



町の木 アカマツ

大地に根づくアカマツのように、すくすくと伸びゆくまちの発展を願って決めました。



町の鳥 ブッポウソウ

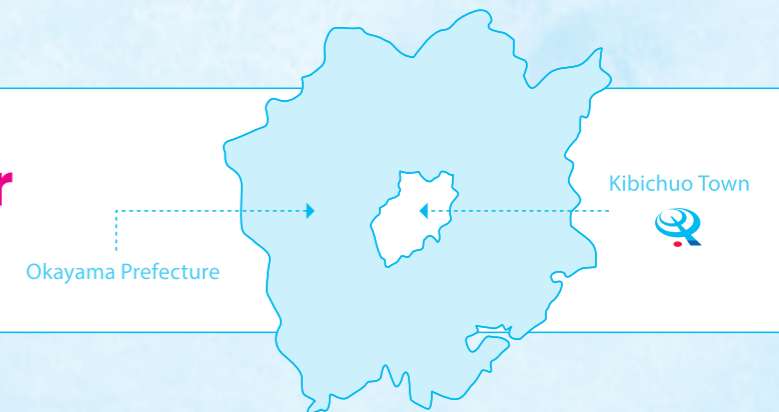
繁殖のため町へ飛来するブッポウソウのように、町の宝である子を大切に守り育てることを願って決めました。

# 中央から 元気に!!



## Challenge & Power

挑戦し続ける町 吉備中央町





## 2004

- 10月 ● 旧加茂川町、旧賀陽町が合併し、吉備中央町が誕生(1)(2)



## 2005

- 2月 ● ロマン高原かよう総合会館にて、合併記念式典を開催式典では決定した町章も発表
- 10月 ● 第60回国民体育大会「晴れの国おかやま国体」バレーボール競技開催



## 2006

- 3月 ● 「町の花・町の木・町の鳥」、「町民憲章」が、町・議会・町民(公募による)などでつくる吉備中央町慣行制定委員会を選定審議により決定

## 2007

- 4月 ● 吉備高原都市内に岡山県総合教育センター開所(3)



## 2008

- 3月 ● 一般農道吉備高原中部線及び中央線(北地内～上竹地内)開通
- 4月 ● (公財)吉備中央農業公社発足

## 2009

- 10月 ● 女性消防団員で構成する吉備中央町消防団女性消防隊発足
- 12月 ● 音声告知放送施設整備事業完了



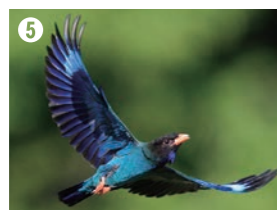
## 2010

- 10月～11月 ● 第25回国民文化祭・おかやま2010開催(4)

## 2011

- 12月 ● 吉備中央町図書館(かもがわ図書館・ロマン高原かよう図書館は改名)開館

## 2012



- 9月 ● ブッポウソウ、ニホンメダカを吉備中央町に生息する希少野生動植物を保護する条例により指定(5)

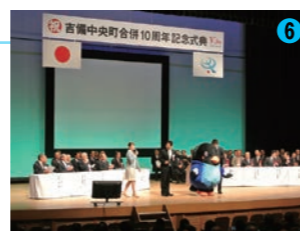
## 2013

- 3月 ● 町内4中学校(加茂川中・竹荘中・吉川中・大和中)閉校

## 2014



- 4月 ● ふるさと納税米作り農家応援事業開始
- 4月 ● 加賀中学校開校
- 10月 ● 吉備中央町合併10周年記念式典開催(6)



## 2015

- 4月 ● 西山太陽光発電所運転開始(7)



## 2016

- 3月 ● 岨谷太陽光発電所運転開始
- 7月 ● 町営塾(現公営塾「kii+」)開講

## 2017

- 4月 ● 「吉備中央町キッズパーク」オープン

## 2018

- 3月 ● 認定こども園吉備高原こども園新園舎落成(8)
- 7月 ● 平成30年7月豪雨被害
- 10月 ● キッズパーク来場者5万人達成



## 2019



- 4月 ● 吉備高原都市内に吉備中央町有住宅吉備高原団地完成
- 8月 ● 吉川地内に環状交差点(ラウンドアバウト)が完成(9)
- 10月 ● 町の鳥「ブッポウソウ」を制定
- 11月 ● 頑張る農家応援事業開始

## 2020

- 7月 ● 吉備プラザ内にキッズパーク屋外広場「にじいろ広場」がオープン
- 8月 ● ふるさと納税米作り農家応援事業寄附金額が10億円突破

## 2021

- 5月 ● 東京2020オリンピック聖火リレー開催(10)
- 9月 ● 町営バス「町内巡回バス(へそ8バス)」実証運行開始



## 2022

- 4月 ● 全国初となる革新的事業連携型の国家戦略特別区域、「デジタル田園健康特区」として指定
- 11月 ● 首都移転を考えるシンポジウム開催(11)



## 2023

- 2月 ● 高梁市・美咲町・吉備中央町による「ベビーファースト運動」3市町連携を開始

## 2024

- 4月 ● 幼保連携型認定こども園開園(円城・豊野・大和)
- 11月 ● 吉備中央町合併20周年記念式典開催



移住

元・地域おこし協力隊  
六反 佳夕子さん



移住

株式会社 Solid Love  
梶原 悠希さん



## 祭を通して町民の姿を浮き彫りに

**「まちの図鑑」で魅力を伝えたい  
地域おこし協力隊として観光振興に従事**

夫の転勤により、2019年に東京から町に移住してきた六反さん。移住後5年間は地域おこし協力隊として活動していました。2021年、スマートフォンを活用したスタンプラリーを企画し、イベントを開催。また、2022年には町観光協会の一般社団法人化に参画し、グッズや印刷物の作成を担当するなど、デザイナーとして働いていた前職の経験と移住者の視点を生かして、これまで数々の成果を上げています。

そして、自身の協力隊最後の大事な仕事と掲げ、構想4年、制作半年で完成させたのが「まちの図鑑」。祭りをテーマに町の人々が主役となる冊子を作ることで、町の観光振興に貢献しようと考えました。検討し始めたきっかけは、移住直後の10月に加茂大祭へ参加し、興味を持ったことだったそうです。当時は協力隊に就任したばかりで、活動の最終目標を模索していた時期でした。

冊子に使用する画像は、プロのカメラマンが撮影。「加茂大祭」「吉川八幡宮当番祭」「川合神社夏祭(だし)」など、六反さんが残したい町の情景をピックアップしました。厳かな神事や伝統を継承する人々を映し出した写真をまとめた図鑑は、公民館や図書館、飲食店などでどなたでも見ることができます。「図鑑作りでは周囲の協力や支えが大きな力となり、協力隊の卒業制作のような思いで作りました。町にお礼をしたいという一心で取り組みました」と振り返る六反さん。この冊子により、町がさらなる注目を集めることが期待されます。

## 「母乳ジュエリー」の日本の先駆者

**母と子の絆をカタチにして  
日本に新たな文化を作りたい**

吉備中央町に来る前、オーストラリアで12年間暮らしていた梶原(とちはら)さん。長男を出産後に知り合った友人から、子どもの幸せな成長と健康を祈って作る「Breastmilk Jewelry(母乳ジュエリー)」を教えてもらい感動したと話します。そして「自分で作りたい」と思っていたところ、運よくアカデミーを受講できたため、そこから制作を始めました。その後は販売も行うようになり、いつか日本にも届けたいという思いを抱くようになったそうです。

そして、二児の母となった梶原さんは長男が5歳になった頃、英語しか話さなくなってきた子どもたちに日本語を身に付けさせようと短期留学先を探し始め、吉備中央町で6カ月のお試し生活ができることを知りました。最初はその期間だけのつもりで引っ越したところ、家族全員が町での暮らしをとて気に入り、移住を決断。梶原さんは日本でのジュエリー制作に挑戦し始めます。最初は一人で始めた事業でしたが、相談した地元の方たちが親身になって人を紹介してくれたことで、今ではスタッフが15人に。また、拠点も町内と岡山市内の計3カ所まで増えています。

さらに、昨年は(一社)日本母乳ジュエリー協会も立ち上げました。「国内に同業者が出てきたので、今後は業界全体の品質や価値も高めていきたいと考えています」と語る梶原さん。将来的には、母乳ジュエリーを親から子、孫へと受け継いでもらう文化を築いていくことが夢だそうです。



生まれも  
育ちも  
吉備中央町

小林農園  
小林 豊さん



## 子や孫へ引き継げる農業を

**農園設立や農家民宿開業で  
新たな取り組みを進めていく**

小林さんは1948年に吉備中央町上田西で生まれ、町で育ちました。これまで自身が立ち上げた建設業の他、家業を引き継いだ農業、町が誕生した2004年に始めた山陽新聞販売所の運営など、多角的な経営を行っています。中でも、農業では2005年に小林農園を設立。現在は8ヘクタールの田畑で、コシヒカリやもち米、白菜、自然薯、ゴボウ、大豆、ブドウなどの栽培を行っています。

「収穫した農作物を使って、杣つき餅やブルーベリージャムといった加工品も販売しています」と話される小林さん。高原特有の気候と「赤土」によって育まれた食材を全国へ届けるために、オンライン販売も活用しています。

また、近年は吉備中央町農家民宿推進協議会の希望に応えて、農家民宿を開業。宿泊者は年間を通じて石臼と杣での餅つきが体験できる他、季節によって稲刈りや芋掘り、ピザ作りなどの農業体験も可能です。(2024年10月現在は農業体験のみ実施)

さらに、自然薯祭りで自然薯入りの料理を販売するなど、地域の行事にも積極的に参加している小林さん。体験や行事を通じて幅広い世代の住民との交流を盛んに行っています。

「子や孫へのバトンタッチを視野に、今後は高齢化が進む地域における農業の新しい在り方について考え、さらなる展開を目指したい」と、小林さんは語りました。



生まれも  
育ちも  
吉備中央町

株式会社かわうち林業  
河内 孝介さん



## 人と木が共存する林業を推進

**樹木管理のプロフェッショナルとして  
健やかな成長をサポート**

町の約7割が森林である吉備中央町に生まれた河内さんは「何も言わず、精いっぱい真つすぐに生きている木に魅力を感じました」と話します。大好きな木に関係のある仕事に携わるため、森林組合で約3年間経験を積みながらアーボリスト(樹護士)の資格を取得しました。アーボリストとは、巨木・大木の管理、剪定、伐採に関する豊富な知識と経験を持つスペシャリストです。アーボリストトレーニング研究所で講習を受け、実技試験を通過することで認定資格が得られます。

そして、2021年5月に株式会社かわうち林業を設立。樹上作業専門の法人組織として、河内さんを含む9名のアーボリストが活動中です。危険木の伐採から樹木の管理・保護まで、幅広い業務を安全かつ確実な方法で行える同社は、岡山で重宝されています。

これまで、後楽園で25~30mの松に登り、枯れ葉の除去に当たるなど、さまざまな場所で樹木管理に関する事業などを行ってきました。また、主に地元小学生を対象とした環境教育イベントも実施。ロープを使用した木登り体験など、木が生きていることを体感してもらえる取り組みを実施しています。

今後は第二の人生で、伐採した木を生かすことについて考えることも課題の一つだと話す河内さん。国内外のツリークライミングの大会にも積極的に出場することで、アーボリストとしての意識を高め、さらなる情熱を注いでいくそうです。



わたしたちのチャレンジ



写真上/システムズナカシマ(岡山市)の運営による「吉備高原Nスクエア」の1階は誰もが気軽に立ち寄れるレストランカフェ&フリースペースとなっている  
写真左/Nスクエア外観

デジタルの力を活用したまちづくり

デジタル技術を活用した新たな施策、がスタート

町では、国が推進する「デジタル田園都市国家構想」に基づき、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を実現するため、令和4年に国から指定を受けた「デジタル田園健康特区」を皮切りに、デジタル技術を用いたまちづくりを行っています。

データ連携基盤を搭載した住民向け

ポータルアプリである「きびアプリ」は、最新の町の情報を確認することはもちろん、オンラインショッピングやデマンドタクシー、電子母子手帳、健康チェックなどの複数の機能を搭載。一つのアプリから生活をより豊かにできるサービスを展開しています。

なかでも共通診察券機能は、基本4情報(氏名、生年月日、性別、住所)の他に、服薬情報や特定健診情報、予防接種情報が含まれており、これらの情報が

救急隊と医療機関に共有されることで、最適な病院選定や迅速な救急治療の実現が期待されています。

世界的建築家・隈研吾氏監修「吉備高原Nスクエア」

そのほかにも、官民連携の取り組みも積極的に推進。吉備高原都市内に令和6年3月にオープンした、カフェレストラン・テレワークスペースを有した「吉備高原Nスクエア」は世界的に有名な建築家である隈研吾氏がデザイン。賑わい創出を含めた関係人口の増加にも取り組んでいます。



吉備中央町では、首都移転並びに首都岡山を提唱しながら、今後啓発事業の推進を図ることを目的に、令和3年度において、「首都岡山 ー新しい日本の形ー」を特許庁に出願し、商標登録が承認されています。[令和4年3月9日特許庁商標登録済]

『子どもは吉備中央町の宝物』

～あの子 どの子 知っとるでえ みんなで子育て 吉備中央町～

人生のパートナーの紹介から出産子育てをお手伝い

オンライン縁むすびサポート事業では、結婚を希望する方にパートナー探しから成婚まで、カウンセラーがトータルで婚活をサポート。また、住みたいまち定住奨励金や住宅取得、リフォーム、賃借、引越し費用等の一部を支援する施策も実施しています。

また、経済的な施策として、子育て世帯応援金などに加え、18歳までの医療費助成などの支援も充実。

町内にあるこども園に加え、未就学の子どもと保護者、妊婦の方を対象とした吉備中央町子育て支援センターも開設。遊び場の提供や子育てひろば「ゆう」では、小学校就学前の子ども、保護者、妊婦の方を対象に、親同士が気軽に相談や情報交換ができる機会を提供しています。

また、町内の中学生向けに、基礎学力の向上等を目的として公営塾「kii+(キイト)」を開設。子育てだけでなく、教育にも力を入れています。



きびプラザ2階の「キッズパーク」

親子で楽しめる施設も充実

吉備高原都市内きびプラザには、3歳から就学前までの子どもを対象とする大型遊具を配置した「キッズパーク(屋内型遊具施設)」を開設。

0歳から2歳児を対象としたおもちゃを取り揃え、知育遊具やクッション性に優れた安全遊具を設置した多目的室があり、子どもたちが安全かつ自由に、楽しく遊ぶことができます。

また、きびプラザ屋外に「にじいろ



きびプラザ屋外の「にじいろ広場」

広場(屋外遊具広場)」を常設。児童用コンビネーション遊具・ネットクライミング遊具・幼児用コンビネーション遊具・ターザンロープ・水遊び場(夏季限定)を設置しています。

町公式SNS・YouTube

岡山の中心「おへそ」にある吉備中央町の暮らしや移住者の声などを町公式 Instagram にて発信中! 町公式 LINE では安心安全に暮らすための防災情報のほかにも各種行事を発信中。町公式 YouTube でも町の魅力を発信中。ぜひ登録をお願いします。



町公式 Instagram



町公式 LINE



町公式 YouTube

夢ではない首都岡山構想

吉備中央町が属している「吉備高原地域」は、地質学者によって地盤の強さが証明され、安全で安心できる地域と理論付けられた土地。南北約2,800km、東西約3,000kmに広がる日本のほぼ中央に位置する町で、国内外の起業家や移住希望者、立地企業からも首都機能の移転先として注目されています。

子育て関連サイト



定住応援サイト『未来ヘダイブ』



育児応援サイト『ママフレ』

吉備中央町と高梁市、美咲町3市町連携

町では、生き育てたくなる、社会を実現するため高梁市・美咲町とともに、3市町で「ベビーファースト運動」に参画。これを契機に、公立図書館連携事業など3市町の子どもの交流人口の拡大を目指し、吉備中央町は、未来を担う子どもたちとその家族を支えるため、子育て支援に全力を注ぎます。



偉人



重森三玲・作「友琳の庭」

### 鬼才・重森三玲の庭園作品が町内に現存

#### 日中友好の隠れた立役者・岡崎嘉平太も輩出

京都・東福寺方丈庭園の作庭で有名な重森三玲(しげもりみれい)は、吉備中央町吉川出身。芸術性の高い庭園が町内にもいくつか遺されており、三玲の目指した美を今なお体感することができます。そのうちのひとつ賀陽庁舎内「友琳の庭(ゆうりんのにわ)」は京都から移築したもので、束ね熨斗がモチーフの池泉観賞式庭園(写真上)。そして、重森三玲記念館横に建つ茶室「天籟庵(てんらいあん)」には、移築の際に海と陸をモルタルで表現した庭が、三玲自身の手により新たに作られています。重森三玲記念館には、多数の著作や書画なども収蔵され、三玲の足跡を辿ることができます。



岡崎嘉平太の肖像画(絵/町出身である肖像画の大家・秋山清水作)

また、日中国交正常化の隠れた立役者・岡崎嘉平太(おかざき かへいた)も町の出身。嘉平太が発案した日中覚書貿易(LT貿易)が道筋となって、中国との国交正常化が実現しました。その業績は町内の岡崎嘉平太記念館にて紹介しています。

祭



加茂大祭の「御神幸」

吉川八幡宮当番祭

### 「加茂大祭」「吉川八幡宮当番祭」は岡山県三大祭り

#### 県の重要無形民俗文化財に指定された町の伝統

先人から脈々と受け継がれてきた加茂大祭と吉川八幡宮当番祭は町民の暮らしに根付いており、これらは岡山県三大祭りに数えられています。

千年近くの歴史がある加茂大祭は、町内にある八カ所の神社それぞれから御神輿の行列が総社宮に集結し、総社宮も加えた九社で大祭を行うというもの。樹齢五百年はあろうかという杉や榎の巨木がそびえ立つ境内で、太刀振りや獅子舞など、古式ゆかしい神事が繰り広げられる様には圧倒されます。そして八社が御神輿の高さを競う「御神幸(ごじんこう)」によって祭りはクライマックスを迎えます。

また、吉川八幡宮で行われる吉川八幡宮当番祭は、吉川地区を南北に分け、選ばれた十歳前後の男児数人の中から御籤(みくじ)によって二人の当番様を決めることから始まります。約一カ月間続くという全国的にも珍しい祭りですが、大祭当日には当番様の率いる行列が南北それぞれの方向から神社に参拝し、当番様同士の「走り競べ」などが行われます。

加茂大祭、吉川八幡宮当番祭ともに例年十月に開催され、この間町は祭り一色となります。いずれも県の重要無形民俗文化財に指定されている町の伝統的な祭りです。

### 郷土料理・くさぎ菜のかけめし文化庁の「100年フード」に

#### 時代を超えて受け継がれるハレの日のごちそう

江戸時代頃から町で伝承されてきたとされる郷土料理・くさぎ菜のかけめし。大祭や結婚式などハレの日のごちそうとして振る舞われ、地域で受け継がれてきたこの料理が文化庁の「100年フード」※に認定されました。

この料理のメイン食材はもちろん「くさぎ菜」。野山に自生する「くさぎ」の若芽を加工したもので、独特な匂いのするくさぎの葉を食べやすくするための下

くさぎ菜のかけめしの具材はくさぎ菜、肉類、野菜、卵などで、お出汁をかけて食べる

処理に少し手間がかかります。そのため近年では家庭での作り手がめっきり減ってしまいましたが、100年フードの認定を機に、くさぎ菜のかけめしに多くの方が触れられるよう機会の創出に取り組んでいます。

※地域で受け継がれ、100年続く食文化を文化庁では「100年フード」と名付けて認定し、継承していくことを目指した取り組み

#### 広大な田畑と自然のある高原ならではの特産品

特産品には高原ならではの気候・土壌を生かして育てられた円城白菜や、それを材料として作られたキムチ、生で食べられるほど甘いトウモロコシなどの野菜や米があります。フルーツではピオーネやブルーベリーが盛んに作られており、特にブルーベリーはアイスやジャムなどたくさんの加工品に展開されています。



特産品のイメージブルーベリー(左上)、ピオーネ(左下)、白菜(右下)

### 農家民宿での体験を通して地域の魅力を発見!



近年、農業体験などが楽しめる「農家民宿」が全国的に注目を集めています。町内でも農家民宿が数多く営業しており、多くの方が訪れています。そのひとつ「農家民宿みっちゃん家」では、旬の食材を味わうだけでなく、一緒に田舎料理づくり体験もでき、家族連れやグループで楽しめます。また、海外のSNSのインフルエンサーも訪問するなど、宿泊施設にとどまらず、新しい観光の形として人気を博しています。町内には個性豊かな農家民宿があり、それぞれ魅力を発信しています。豊かな自然の中で、時間を忘れてゆったり過ごしてみませんか。



### 地盤の固さでも注目の理想郷 「吉備高原都市」

岡山県の「へそ」、つまり真ん中に位置する標高120m～500mの高原地帯にあって、土地の7割強が森林となっている吉備中央町。そのさらに中央部には、「吉備高原都市」が整備されつつあります。こちらは町の豊かな自然環境の中にありながら、「保健・福祉・文化・教育」を核とした地域コミュニティの実現を目指して開発されている計画都市です。

吉備高原都市のある吉備高原地帯は地盤運動が少なく、安定した準平原であるとされています。さらにこの一帯は深さ約20kmまでが一枚の岩盤になっており、活断層がなく直下型地震の心配がないという報告もあります※。

東京一極集中、しかも首都直下型地震の不安が常につきまとう日本において、地盤の安定している吉備高原都市は、首都機能の移転先として近年熱い注目を浴びています。

※地球年代学分野の観点から資源開発などを行う「地球年代学ネットワーク」の理事長・板谷徹丸氏談

### 令和7年4月 小学校の統合について

※注1

- ・円城小学校は閉校後、加賀東小学校の名称で開校
- ・豊野小学校は閉校後、加賀西小学校の名称で開校
- ・吉備高原小学校は閉校後、加賀南小学校の名称で開校

※注2

新たな小学校の開校により、以下の6小学校は、令和7年3月をもって閉校となります。

- 津賀小学校、御北小学校、上竹荘小学校、下竹荘小学校、吉川小学校、大和小学校